

～ 遠野ボランティアセンターを通しての活動報告 ～

2011年10月5日

福岡地方バプテスト連合 災害対策窓口



「遠野まごころネット」のボランティア活動に集まった150名の方々。ラジオ体操の後、7時30分から朝礼が行われて、作業などの説明と、ボランティア活動をするにあたっての心構えや諸注意が行われました。

ゴールデンウィークには600人、8月終りには450人のボランティアが集まっていました。9月に入ってボランティアがの数が減っているそうです。

この日は、日本バプテスト宣教団のメンバーも、大槌町での瓦礫撤去のボランティア活動に参加されました。

前日までは、ベンチ作りをしていたメンバーもおられました。



遠野まごころネットのボランティア活動は、瓦礫撤去の活動もありますが、仮設住宅の隣接地に「まごころ広場」を設けて、珈琲やお茶とお菓子などのドリンクサービスとおしゃべりの場が提供してあります。こちらには、20名以上の方が来られました。

こちらも仮設の隣接地に設けられた「まごころカフェ」になります。11時から3時30分までの間に、気ままに十数名の方が来られておしゃべりをされました。私も、参加させて頂いて、昔話から地震の話などを傾聴しました。

大槻町の市街地が壊滅的な被害を受けたために、買い物をするために釜石市に行かなくては行けないが、高齢者にとっては、困難だと何人ものご高齢の方々から伺いました。



神奈川県地方連合からの6名のボランティアは、大槻町で瓦礫撤去の活動をおこないました。すでに、重機で大きな瓦礫は撤去してあり、きれいに取り除くために、ボランティアによって小さな瓦礫を取り除いていかれたのですが、その瓦礫の中から、生活に結びつく品が出てくると、その持ち主はお元気にされているのだろうか、と考えさせられたといいます。また、それは、瓦礫ではなく、その人にとっての大切な宝物であるのだ、ということをおぼされたそうです。

この作業に、日本人だけでなく、様々な国からの参加者があったそうです。また、老若男女、様々な年代の方々が、一緒に汗を流しながら、コツコツと作業をされていたそうです。基本的に作業時間は、10時から3時までで、途中で休憩の時間を取りながら行われています。

「まごころ広場」の活動は、朝礼の時に募集が行われたのですが、どなたも手を上げられなかったので、被災者のお話を聞かせて頂きたいと思って、参加を申し出ました。最初の「まごころ広場」では、カフェの設営をしていると仮設住宅に入っているメンバーの方が数名手伝いに出てこられて、賑やかに準備を進めました。その後、もう一つの仮設住宅に移動してカフェの準備を行いました。

お話を伺う中で、女性の方々が、色々とお話をされる印象を持ちました。そして、現在の生活の面での様々な御苦労されていることなどを伺いました。男性は、口数が少なく、仕事や家を失ってこれからの生活のことが重くのしかかっているように感じました。また、カフェ募金箱に貼られていた「がんばろう」という張り紙をみて、被災者の方が、「この言葉は好きじゃない、もうきつい」と言われました。